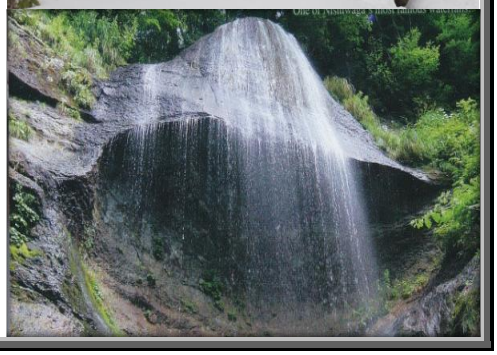
IWATE SECTION OF THE JAPANESE ALPINE CLUB

JAC岩手支部通信　第 47号

2018年3月20 日発行　(公)日本山岳会岩手支部



次

岩手支部拡大委員会	高橋愼一	1
支部代表者会議と晩餐会	中谷　充	2
日本山岳会永年会員に‥	菊池修身	3
岩手山八合目山小屋管理	久保　豊	4
第 33 回全国支部懇談会	中屋重直	5
五葉山	高橋愼一	6
女神山周回と滝めぐり	中屋重直	7
日光山	阿部陽子	8
金壺山・忘年会	熊谷英雄	9
東根山	熊谷英雄	10
網張温泉スキー	久保　豊	11
東北北海道地区集会決算書	菅原敏夫	11
黒森山	盛合敏男	12
入会ご挨拶	盛合敏男	13
入会ご挨拶	高橋万見子	14
チチタケ	菅原敏夫	14
入会ご挨拶	菅原純悦	15

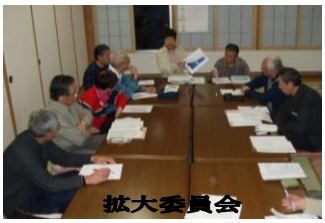
表紙写真(上から) 六角牛山、和賀月山、東根山、西和賀白糸の滝　(今年度登行の山々)

2017. 12. 16（土）

岩手支部拡大委員会

事務局長　高橋慎一

月例山行終了後、午後４時から「ききょう荘」大広間にて、例年にならい拡大委員会を下記の１６名が参加して開催されました。



はじめに、阿部支部長から新入会員の澤口誠さんと準会員の菅原純悦さんのご紹介があり、JAC［山岳」を贈呈して歓迎を申し上げました。挨拶の中で、東北・北海道地区集会開催の協力御礼、新会員獲得努力への感謝などが述べられ、来年度は「山の日」関連事業を支部でも実施したいとの話がありました。

２９年度 JAC 支部代表者連絡会議（12/ 2）に代理出席された中谷充会員からは、「支部における登山計画書とそのチェック体制」について本部の意向が報告され、更なる検討の余地があると感じました。

また、来年度の山行計画について協議し、６月に須川岳で３支部合同登山、８月に公募登山を実施するなど、概ね年間計画案がまとまりました(別表)。

なお、担当幹事などの詳細を盛り込んだ原案を４月の支部総会において審議します。

最後に来年度の忘年会は大船渡市（碁石海岸）で開催することを決めて閉会しました。

【参加者　１６名】

阿部陽子、高橋慎一、菅原敏夫、熊谷英雄
遠藤正子、中屋重直、熊谷敬子、中谷　　充
西村幸雄、畠　登、久夛良謙一、 遠藤征彦
高橋万見子、滝浦弘美、菅原純悦、澤口 誠

平成30年度

JAC 岩手支部事業・山行計画(案)

例会山行・行事	月　日	事業区分等
万寿山(花巻市)	4/21（土）	公益Ｂ. 観察会
栗木ヶ原(葛根田)	5/26（土）	
祭畤山（一関市） 栗駒山(須川口コース)	6/16（土） ～17（日）	公益Ｃ. １７日： 宮城. 秋田. 岩手 ３支部合同登山
大雪山（銀泉台～北海岳～黒岳縦走） 他２コース	7/21（土） ～22（日）	第３４回全国支部懇談会 会場(層雲峡温泉)
石上山（山の日記念山行・ふるさとの山に登ろう）	8/11（土）	公益Ａ. 普及登山 公募１０名 （新聞広告）
岩手山八合目避難小屋管理当番（柳沢コース）	8/25（土） ～26（日）	荷揚げ. 小屋管理. 清掃等
高森～駒ヶ岳踏査(夏油)	9/8（土）	公益Ｃ. 環境保全
なめとこ山 (豊沢川流域)	10/21（日）	公益Ｂ. 観察会
前刈山(宮古市)	11/10（土）	公益Ｃ. 環境保全
原台山(陸前高田市) 支部拡大委員会 支部忘年会	12/8（土） ～ 9（日）	支部忘年会 碁石海岸(海楽荘)
網張スキー	1/12（土）	
宰郷山(繋アルプス)	2/16（土）	
五間ヶ森(花巻市)	3/23（土）	
青松葉山	31 年度 4/20(土)	公益Ｂ. 観察会

◎岩手支部拡大委員会（2017 年 12 月 16 日)において協議された計画案です。４月８日開催の支部総会において審議決定のうえ実施されます。

全国支部代表者会議と年次晩餐会に参加して

中谷　　充

支部代表者会議は晩餐会当日の午前に京王プラザホテル４２階の会議室にて開催され、支部長は県山協の行事に参加するので代理として出席した。しばらく振りで支部長連中と顔合わせが出来た。主な協議内容は以下の通りであった。

（1）支部における登山計画書チェック体制について（中山副会長）

支部主催山行に限らず支部員個人の山行、それは日帰り登山でも事前に計画書を支部内に新設される審査指導する機関に提出させ吟味の上に理事会の遭難対策委員会に提出する事とする案の説明であった。代理出席で今までの審議過程を理解していないので日帰りまで対象になっていることを初めて聞いて驚いた、それについては疑問の質問意見もあったが提案者からはこの場の参加者みんなが賛成でないことは判っているがやらなければならない趣旨の発言があったしその他の発言からして広島支部などの事故などで監督官庁の意向が予想された。

この事を年末の支部拡大委員会で説明した後に個人山行まで対象とするような不自由なことでは退会するとの意見も聞こえた。支部に設置された機関が届けを審議のうえ上申する事によって法的責任が生ずる可能性に不安がある。いずれ理事会で審議されることになっているが入会希望者を躊躇させたり、退会者を出さないような配慮がほしいものである。

（2）支部事業委員会アンケート報告（重廣副会長から資料によって説明）

登山教室を開催する際支部内での講師やリーダーが不足である支部が幾つかあった。岩手支部の場合は県山岳協会に依頼する事によって最低線は解決できよう。但しヒマラヤ登山についてはＪＡＣに頼るほかはない。

さらに広島支部の遭難事故の教訓を挙げられたが岩手支部にも該当する。

（3）支部山行と旅行法について（奥田委員）

一泊二日登山位は別としてそれ以上の山行に一般募集をして宿泊費や交通費を一括して会費で集める事業については公益社団法人としては留意する必要がある。

（4）幌尻岳事故報告（広島支部から資料に基づいて説明）

経過報告等で資料は回収された。降雨に伴う沢の増水に起因するもので水量や継続時間に差はあるとしても岩手の山でも遭遇する事がありかつそれによる事故の話もあるので詳細な報告が解禁されたなら参考にすべきことである。

◇平成二九年度年次晩餐会の参加報告

１２月２日（土）京王プラザホテルで開催された。宴が始まる前に例年どおり講演会・図書交換会・山岳文献や写真の展示・ＪＡＣのグッツ販売など多彩な行事が開催された。特に講演会はその年の山岳界で注目された登山の当事者とか山に係わる魅力的問題が取上げられ JAC に所属した恩恵を実感する。

晩餐会は約５００人の参加で、５３のテーブルにそれぞれ８・９人位毎申し込み順に席を指定された。これは他支部の人達と接触できる好い機会として貴重である。岩手支部から参加者は青野興喜・浅野新一・大友厚夫・菅野恵太・渡辺博厚・中谷充の６人でした。穴田雪江さんも名簿にあったがお会いできなかった。大友厚夫さんは新入会員として壇上で紹介されました。欠席でしたが元岩手支部長の菊池修身さんは新たに永年会員になられ紹介された。宴そのものも盛大であった。

ＪＡＣ晩餐会は１２月２日、京王プラザホテルで開催され、席上　**菊池修身**さんが永年会員に推挙されました。菊池さんは長年にわたり岩手支部員として、また２００３年から２００９年の６年間、岩手支部長として支部の拡充発展にご尽力いただきました。このお祝いに際し、山の経歴やご活躍を皆さんに紹介することにしました。編集担当の私がお会いしてお訊きするところですが、怠慢から菊池さんに自己紹介を兼ねてご寄稿いただきました。ご多忙のなか感謝申上げます。　（菅原敏夫）

日本山岳会永年会員になって

会員番号　6275　　菊池修身

私の山への第一歩は高校生の時、江刺梁川から、一人で夏油に一泊、金ヶ崎駒ヶ岳に登ったものです。これは兄の影響であります。大学入学後、山岳部に入部のきっかけとなったと思います。部がＪＡＣ学生部に入っており、各大学と交流、私の山歩きの基礎はこの学生時代に築いてもらったと感じています。

日本山岳会に個人で入会したのは１９６７年２７歳の時になります。山仲間と交流し、山の先人たちの山行記録を詠み自然の豊かさ偉大さ、恐ろしさも知りました。そんな中海外の山にも目が行き、韓国、台湾の山を経験し山岳部コーチ時代、１９７１年中部ヒンズクシュ、コーイパルショイ（6113m）アフガニスタンの山に遠征しました。得たものはいろいろありますが、家業の都合で、３６歳の時（１９７６年）岩手に帰って来ました。

岩手支部は当時、笠原先生が支部長を務めておられ、支部に入会し、山が以前より身近になり、家族と共に山行に参加させていただき、楽しい思い出ができました。

中谷先生の後を受けて支部長をさせていただきましたが、全国集会の実施等、会員の皆様に支えられての年月で、感謝あるのみです。

２００８年「ブナの会」の自然観察会に参加中、岩手宮城内陸地震に遭遇し、手足の骨折などで５０日あまりの入院となり、皆様には大変ご心配ご迷惑をお掛けしてしまいました。

２００９年支部長を辞任、リハビリのウオーキング等はしていたものの山への意欲が涌かず、しばらく遠のいていましたが、孫に岩手山に登りたいといわれ、昨年登って来ました。ボツボツ支部山行にも参加させていただくようになりました。

「七夕会」と言う学生時からの人たちと山行、年に一度、東京・宮城・青森・岩手の人たちと山歩きをしております。ＪＡＣ５０年の在籍は体力の衰えを実感します。

仲良く山旅を共にして戴いた支部会員の皆様に厚くお礼申しあげます。これからも歩けるだけ歩いて行きたいと思います。

８月　例　会　山　行

平成 29 年 8 月 27～28 日

岩手山八合目山小屋管理

久 保　　豊

写真上：７合目からの岩手山

左：コマクサ／右：右から阿部、須々田、管理人、久保

集合時間の６時前に白樺商店に参加者３名がそろい荷揚げの準備。その後、朝の陽射しの中、出発予定時間前の６時２０分頃登山口を発ちました。今年は好天に恵まれたと実感しながら歩を進めます。荷揚げ品は、自家発電機用の燃料５リットル缶２、販売用即席麺２箱です。昨年より容量が半分になり嬉しい限りです。それでも各自のリュックの重さは泊り４食分の食料や着替え、必要品などで重さを実感。

ここ数年協力いただいている会友の須々田さんは、青森支部の会員でもあります。白樺商店前に前泊し準備万端での参加です。須々田さんの青森支部での活動は、八甲田山春スキーの誘導用竹竿の設置、登山道の点検と整備、また平成１８年（１９９９年）から白神山地のブナ林再生事業に取り組んでいます。１９７０年代に植林が広まった杉を除伐してブナを主とする混交林の森に戻す取り組みをしています。小中学生や一般の参加者にクマゲラの森への案内とブナ林の美しさなどをレクチャーしながら植林活動を中心に行っています。

今年も歩き初めの軽やかな会話も徐々に口数が無くなります。その間、自然に宮沢賢治のことがまた思い浮かびます。賢治は妹を亡くし傷心していた。好きだった山歩きで元気を取り戻そうとせずサハリンへの旅だったのはなぜか、帰路は旅費もなくって‥‥、と思っていると一合目がもうすぐです。

一合目での小休止中に須々田さんが石堂祠近くで寛永通宝を発見。数日前の土砂降り続きで土の表面が水流で少しずつ流され現れたようです。江戸人の思いのこもった寛永通宝を祠にあげました。

空模様も徐々に暗くなり五合目で雨が降り、次第に強くなりました。通過雨です。出発前、「今日は雨が降らん」と決めつけて少しでも重量を軽くするため雨合羽を車に置いてきたことを悔やみました。雨宿りをしていると阿部陽子さんが快調なペースで上がってきまして合流。小屋まで先に上がっているとのことで会話後に見送ります。３０分ほどの雨宿りで雨も弱くなり出発。須々田さんからいただいた大型のゴミ袋を雨合羽代わり着込み七合目を目指します。七合目到着頃には空も明るくなってきました。小休止の後、軽い足取りで八合目避難小屋を目指します。

到着すると管理人さんから、阿部陽子さんは九合目避難小屋の清掃に出かけているとのことで昼食。その後、須々田さんと阿部祐二さんは頂上へ。私は濡れた衣類の乾きが不十分なことから小屋で毛布のたたみ直しや整理整頓。しばらくして須々田さんと阿部祐二さんが帰りブロッケン現象を何年ぶりかで見たと話してくれました。

避難小屋に到着する個人や団体客の対応のお手伝いで夕方となりました。土日とあって３０人前後の方が利用していました。

今日は阿部陽子さんが知人と偶然会った盛岡ＲＣＣクラブ会員の方と重茂(宮古市)

の方、管理人さんと一緒に夕食宴会です。持参した食材や飲み物で山談義も盛り上がります。途中で管理人さんから夜間に小屋にたどり着けない登山者がいるとの連絡が入り、すぐに阿部陽子さんが捜索にでかけました。しばらくして遅れた親子が無事到着しました。幸い大事には至りませんでしたが、急な出動に対応した阿部陽子さんに敬服しました。登山者が無事だったことを祝ってまた山の話で会話もすすみ山小屋での一期一会を満喫しました。今年も岩手山の麓で花火が上がりましたが、私は宴の盛り上りに負け七合目からの花火を見に行けませんでした。

翌日、阿部陽子さんは都合があり早出。大凡の団体客も出立した後にＲＣＣの方も協力してくれて小屋の清掃、トイレ清掃、ゴミの処理、毛布の日干しを手際よく行います。１０時頃には終了し、好天なこともあり岩手山ピークまで出かけます。今回は時計回りとは逆コースです。戦前は賑わったであろう奥宮を参拝し頂上へ。こちらのコースは平坦歩きが多く傾斜はピーク下の短い歩きだけでお勧めだと聞いていましたが歩いてみて再実感しました。頂上直下の登山道では鳥名は分かりませんが２羽がしばらく乱舞しているところを観察しました。お鉢の帰路では平年ですと姿を消しているコマクサがまだ咲いています。８月すぐに梅雨明け宣言がでた後、長く天候不順が続きました。結局、梅雨明けはなかっと訂正となりましたが、この影響かと思います。お鉢を一回りして１２時頃に八合目避難小屋に到着。昼食後の１２時３０分下山開始。１６時５０分登山口到着。到着後のスイカも格別な味わいでした。２日間とも無事に終えることができました。

〈コースタイム:柳沢コース〉

・登り：６時間　～６時間３５分
（雨宿り：五合目３０分含）

・下り：４時間１０分（昨年より５分早い）
各合目毎の休憩１０～１７分

〈八合目避難小屋～山頂上往復タイム〉

登り１時間/下り１時間（鳥観察と休憩）

〈参加者〉：須々田秀美、阿部裕二、久保豊

～岩手山八合目小屋当番の句～

☆　登るほど 肩に食い込む 荷揚げかな

☆　下るほど セミ声響く 岩手山(久保　豊)

★　馬返し 務めを果たし 食う西瓜

★　年毎に 緑増え行く 御鉢かな(真山人)

第 33 回全国支部懇談会

時：10 月 13～14 日
所：つくばグランドホテル
岩手出席者： 阿部陽子、中屋重直

新参とはいえ茨城支部はさすがに人材が豊富で、記念講演とアトラクションがたくさん用意され、かつ名峰筑波山登山には４班に分散編成する充実ぶりに感心させられた。

特に、国土地理院職員で剱岳に三角点を設置した山田明会員の講演は興味深かった。山田氏は、山岳測量に関して出前講座を行うので、岩手でも企画したらどうかと申し出てくれた。なお、来年の全懇は大雪山系赤岳・黒岳（層雲峡）での開催という。

左から　小林 JAC 会長、西山北海道支部長
阿部岩手支部長

９月 例 会 山 行

平成 29 年 9 月 9 日（土）

五 葉 山（1341m）

『美味しかった山コーヒーと滝沢スイカ』

高 橋 慎 一

午前８：00、夢産直かみごう駐車場に参加者７名が集合、天候はほぼ快晴、絶好の登山日和になった。今回は住田町中垈から入山、桧山集落を抜け林道を進み、あすなろ山荘経由で山頂をめざすコースである。予定の登山口より２㌔程手前で林道崩壊のため車両通行止めの表示があり、９：０５ここから歩き出した。どうやら昨年の台風の被害らしい。かなり以前、森林浴林道として整備し利用されたようだが、現在はほとんど人も入らず荒れたままの状態である。長い林道を１時間歩き１０：０５あすなろ山荘着、小休止。立派なきれいな小屋で利用者は居るようだ。ただ水場がないのが難点だ。泊まる際は要確認。山頂まで１２０分の標識がありいよいよこれからが本番の登りである。

ゆっくりとじっくりと、ヒバやヒノキアスナロの林の急斜面を一歩一歩登る。山慣れたメンバーなので壮年のごとく皆若々しく心強い。急登にあえぎながらも傾斜が緩くなり笹に覆われた道を進むと、シャクナゲの群生が出迎えてくれた。

どれも蕾を付けている、さぞや一斉に咲き誇れば見事でしょう。来年はぜひ見に来たいなどと感嘆の声が響き渡った。稜線に出ると目の前に青空となだらかな山頂部が広がっていた。１２：２０山頂手前の日枝神社着、見晴らしが良いのでここで昼食にした。

菅原さんがセミナーに通った腕前でドリップコーヒーを淹れてくれて、皆で美味しく頂きました。山で飲むコーヒーは格別で最高で一す。ほかにも姫リンゴや漬物なども皆さんから頂きました。

１３：１５神社から１０分ほどで一等三角点がある五葉山山頂着。地震の影響によるものかコンクリート製の標柱が一部倒壊し無残な姿を見せていた。この日は展望が良く愛染山がどっしりと構え、片羽山、早池峰山、室根山、氷上山、それに大船渡・唐丹湾など三陸方面も望むことができた。

全 員 で 登 頂 の 記 念 撮 影

下山時、老朽化した石楠花荘に立ち寄り現状を確認、改築への道のりはまだまだ遠いようだ。稜線の分岐からは今度は急坂を下る。慎重に足を踏み出す。１５：００あすなろ山荘着、あと一息、林道を急ぎ足で下り車止めに全員無事に到着（１６：０５）した。夢産直の駐車場に戻り反省会、おもむろに阿部さんから滝沢スイカの差入れがあり、皆夢中でかぶりつきました、とても甘く美味しかったです。差入れ満載の山行に感謝しながら解散となった。

【参加者】７名

阿部裕二、中屋重直、遠藤正子、熊谷敬子、滝浦弘美、菅原純悦、高橋慎一（幹事・記録）

１０月　例　会　山　行

平成 29 年 10 月 9 日（月）

女神山(955.8m)周回と滝めぐり

中 屋 重 直

奥羽山脈真昼山塊の女神山へ、紅葉シーズンをねらって企画した。昨年も同時期に実施したのだったが、大雨で登山ではなく「子規の通った古道」を下見する程度で中止している。初心者の山として、また登山口の近くに、白糸の滝をはじめ７つもの名滝が集まっているため人気が高いところでもある。

なお、女神山といえば福島県伊達市に約６００ｍの同名の一等三角点がある。福島駅からの路線バスの便もよい名山なのでついでに紹介しておこう。

岩手県西和賀町の女神山の場合は、湯田温泉郷から登山口までは遠く、貸切バスはともかく、タクシーは行きたがらない悪路である。携帯電話も通話圏外なため、ある時パンクした乗用車（スペアタイヤを積まないハイブリッド車）が難儀していたという話も聞いた。

旧沢内村碧祥寺前に集合した車は６台、総勢１１名で、一般参加の２人の女性が目新しい。１年前の山の日制定記念山行に参加したことがきっかけだというのだから、それは滝浦・菅原（純）会員と同じだ。

県道１号線を南下して下前方面へ右折、約５キロメートルで正岡子規の句碑がある。この道は県道１２号というが秋田県境の峠越えにつなげる前に工事を中止し、行き止まり状態なのである。この辺に何台かを駐車して、女神山・白糸の滝駐車場へはさらに５km ほどだ。登山口は１０台分以上が駐車できる広さだが、本日は我々が着いた９時の時点で満杯となった。

登路はいっとき急坂があるものの、あわてず呼吸心拍を整えて登れば２０分で尾根に出て眺めもよくなった。この坂を登り切る頃、ご夫婦連れを追い抜いたところ、「アベヨーコさんです　ね、放送で知っています」「私らも後ろについていいですか」と、思わぬ申し出があった。初心者の菅川さんらに阿部支部長が、手取り足取り歩き方を指導したところなどが聞こえたということらしい。盛岡から来たというこの夫婦とは頂上で別れたが、写真を撮ってもらったりした。

女神山頂上にて（途中で一緒の女性たちも）

頂上へは２時間。昼食の後、下山は秋田県境を経由する周回コースで３時間。ずいぶん余裕のペースでたいして汗もかかず、秋の収穫をある程度得て満足して無事終えた。

【参加者】　１１名

中屋重直(幹事)、阿部陽子、熊谷敬子、熊谷英雄、菅原敏夫、遠藤正子、高橋慎一、滝浦弘美、　菅原純悦。

一般参加（盛岡市）：菅川雪恵、佐々木晃子

明治二六年八月、俳聖正岡子規は、奥の細道追体験で秋田県三郷町から山越えして、下前を通って湯元温泉に投宿しました。

『日はくれはてて麓村に下る。宵月をたよりに、心細くもなお一二里の道を辿りて、とある村に出でぬ。ここは湯田という温泉場なり。』

日暮らしや　夕陽の里は
見えながら　子規

１１月　例　会　山　行

平成 29 年１１月 11 日（土）

日 光 山（６７３ｍ）

阿 部 陽 子

わが家の地図箱には、国土地理院２万５千分の１の地図(高滝森・津軽石・陸中山田・大槌・霞露ヶ岳)を５枚張り合わせてつないだ大地図があった。昭和４７年改測だから、およそ５０年前の地図情報になろうか。床に広げて山田町周辺を俯瞰すると、これまで登ったことのない「大沢山 673.0m」が目についた。ちょうど宮古と山田の境に位置する「十二神山」の南３㎞にあって、三角点マークもある。山田湾の船越から眺めれば、その山は正三角形の威風堂々たる山容を誇っていた。

ところが、新しく買った平成１３年修正改測の地図には「大沢山」ではなく、「日光山」と山名が書き換えられていたから驚きだ。改名どころか、その日光山の南２㎞の地点に 242m 大沢山という新たな記載もある。地図修正の過程において、山名の変遷にいかなるドラマが渦巻いたか、実際に登って取材し、ことの真相を紹介したのが拙著「岩手の山１５０」の日光山だった。それから数年が経った平成２９年１１月１１日、再び岩手支部例会で登ることとした。

日光山は、光山温泉の岳泉荘が登山口だ。温泉の駐車場に車を止めさせてもらい、古い林道を数百メートル歩き、小沢を越えて東の藪斜面に取りつく。かすかな踏み跡を頼りに、尾根を北東から北へたどる。

１時間で見晴らしのいい巨岩に立つ。崖から覗くだけで恐ろしいが、東に山田湾、南西の空に鯨山がきれいなシルエットを描いていた。かつては岩の上に祠と宝剣があったそうだが、今は別当の家に保管してあるとのこと。ロープで逆さ吊りにして山伏修行をしたかも？と、私は想像を膨らませるのだった。

途中に数ヶ所、巨岩があらわれるので、用心深くルートを見極めねばならない。その先が痩せ尾根となり、しばし気の抜けない急登が続く。眼下に山田湾が広がり、霞露ヶ岳を一望する先端に立つけれど、673m の日光山にはなお１時間を要す。

登山口から３時間。三角点は三等、澤口さんのスマホ情報によると点名が「寺地越」。木に「大沢山の山頂」と書いた新しい看板がくくってあったので、どなたかは知らないが、ここは日光山じゃないと主張したかったようだ。

下りは赤布を外しながら帰る。いつぞや同じポイントで方向違いの尾根に誘われたことがあったけれど、今回もまた同じところで下る方向を間違えた。以前は 245.1m の四等三角点へ下るまで気づかなかったが、例会では GPS により直ちに修正できた。

岳泉荘のロビーに「光山薬湯守護勢至観世音菩薩」の可愛い女神像が安置されている。ご主人に聞くと「昭和１５年から陸中大沢鉱山が始まり、戦後、光山鉱山と改名」「ラドン成分を含む鉱泉を風呂にして抗夫が疲れを癒した。神経病みの人が治ったことから評判が広まった」と説明してくれた。

「６０年前、この山は光山だった。戦後になって私の父が日光山と名付けたのです。大沢山は日光山より少し高い」とも話された。国土地理院の地図が示す 673m の日光山に、つい最近「大沢山」という看板を付けた方がいる。感想をひと言お聞きしたいと思った。

【参加者】６名

阿部陽子(幹事・L)、中屋重直、高橋慎一、滝浦弘美、菅原純悦、澤口　誠

１２月 例 会 山 行

平成 29 年 12 月 16 日

金 壺 山 （５０２m）

熊 谷 英 雄

矢巾温泉駐車場に１０：００集合。準備の後１０：１５、西方の南昌山方向に向かって出発。温泉街（?）を抜けて、橋の手前で左の道に入る。間もなく左手にリンゴ畑が広がっている。

１０：３０、登山道も道標もないが登山を開始。いきなり急登になる。喘ぎながら杉林の中を登ること３０分、次いで葉を落とした雑木林を３０分登る。傾斜がやや緩やかになった辺りで「金壺山」の標識のピークに着き、やれやれと思うや、北側にもう１つのピーク。どうもそちらの方が高く見える。北側にも標識があり、山頂はこっちか。三角点は見当たらない。１１：３０。ここで昼食とする。各自持参のパンやおにぎりでお腹を満たす。

１２：１０下山開始。下山路は秋津神社経由ということで、比較的緩やかな稜線を高圧線の鉄塔の下まで進み、そこからも稜線を下る。５分ほどで沢筋が見えた。電力会社の作業道を辿っていたが、新雪のため見失い、少し下り過ぎた。いよいよ沢に降りる。慎重さがいる、一歩滑ればすべり落ち、全員が久し振りにスリルを味わった。

１３：２０沢を越え、崖を登って林道に出る。１３：３５秋津神社に着き、無事下山のお礼報告。１３：５０登り口通過。１４：０５矢巾温泉駐車場着。

前日までの天気予報では雪・雨とか、どうも思わしくないものだったが、時間の経過とともに雲が薄れ、晴れた穏やかな天候となったことは、嬉しいことだった。必ずしも標高が高くなくても、身近に楽しめる里山があるのだと再認識した山行であった。

その後、今晩の忘年会場であるあずまね温泉ききょう荘に向かった。

【参加者】　１３名

阿部陽子（L）、熊谷英雄（幹事）
中屋重直、畠　登、久孝良謙一、遠藤正子
髙橋慎一、澤口　誠、遠藤征彦、滝浦弘美
菅原純悦、熊谷敬子、髙橋万見子

忘 年 会

あずまね温泉ききょう荘 18：00～20：30
《参加者　１５名　氏名省略》

支部長より、新たに多数入会いただいたことは何より嬉しいこととの挨拶をいただき、中谷充会員の乾杯音頭で宴会が始まった。新入会員の方々との初めての懇親会であることから、全員の自己紹介及び今年の印象的だったことなどを紹介し合いながら、和気藹々と語りあい、盛大に行われた。

委員会に参加された澤口誠さんと高木恵美子さんは都合により帰られた。

忘 年 山 行

平成 29 年 12 月 17 日

東 根 山 (928m)

熊 谷 英 雄

東根山の登山口のすぐ傍に来て、登らず素通りするのは惜しい気がするという。やはり根っからの山好きなのだ。前日の忘年会参加者のうち、都合のいい人９名が登ることとなった。

空は晴れている。日曜日。ということで、時計の針が９時を回った頃の登山口の駐車場は満車状態。私たちはラ・フランス温泉館の駐車場を利用させていただいた。

９：２０登山口を出発。積雪は１０cm 程度。登山道は踏み固められていて登りやすい。１時間掛けて登った「一の平」で５分ほど休憩、水分補給。１０：２５出発し「二の平」には１０：４５。この辺りから積雪が３０cm 位。依然として足元よし、登りやすい。既に下山してくる人が多くなってくる。１１：２０蛇石着。

ここから少しの間なだらかな所を過ぎて、いよいよ最後の七曲がり。一つ、二つ・・と数えるようでは少々息が上がっている証拠。もうひとつ、上空はかなり強い風の轟音。が、登山道には当たらない。そこがこの山の魅力で、風に当たらずに、南峰迄登ることが出来る。ほとんどその風のなか１１：５５南峰到着。そこには７,８人の人たちが居て、食事を摂ったり、景色を眺めたりしていたが、我々一行は三角点のある山頂へ向かった。稜線には雪庇が出来始めている。登るときに聞こえた風音が、ここでは暴れており寒い。気温は－５・６℃位か。体感的にはもっと低い。ここで２名が下山、７名で山頂に向かう。稜線を真っ直ぐ進むこと１０分だが、雪はまだしっかり締まっていないので、何回も踏み込んでしまい、脚を笹に取られて苦戦した。

１２：０５山頂着。一等三角点にタッチ。少し、（いやかなり）寒かったが、昼食とする。昨晩の残り物や朝食のご飯のおにぎりをいただいた。

１２：１０、登ってきた道をそのまま下山。１３：００、先に引き返した２名と蛇石で合流。全員無事登山口に着いたのは１４：２０。

御苦労を労いつつ解散した。

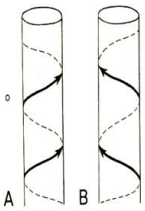
（写真は表紙をご覧ください）

【参加者】９名

菅原敏夫、阿部陽子、中屋重直、遠藤正子
滝浦弘美、菅原純悦、熊谷敬子、熊谷英雄
髙橋万見子

左巻き？　右巻き！

日当たりのいい草地や芝生に
ネジバナは、淡紅色の花を横向きらせん状に連ねて咲く。
花のねじれ方に決まりはなく、中にはねじれないものもある。
アサガオのツルの巻き方は決まっていて、Ａである。
では、この巻き方は、右巻きなのか、左巻きなのか。



時計の針は、「右回り」だから、右巻きである。でも、裏側から見ると針は左・左へと回っていく。アサガオのツルを上から見ると、先端は時計の針と逆だから「左巻き」である。ところが、巻き方を下から見るとツルは時計の針と同じ向に回りながら上に延びる。

アサガオの立場で考えると、自分のツルの左側を支柱にくっつけるようにして回り込みながら上に伸びる。いわば「アサガオのツルは左巻き」である、と言っていい。

1月　例　会　山　行

平成 29 年 12 月 24 日

網　張　温　泉　ス キ ー

久 保　　豊

今年の冬は降雪が早く寒い日が続いたためスキーヤーには、喜ばしいシーズンインとなりました。参加者が集合時間前に全員そろったため予定時間より早く活動開始。曇天でしたが風もない天候でした。リフトで登りますと眼下に雫石スキー場の山(高倉山)に低層の雲海が流れているところを見ることができ幸運でした。

午前中はシーズンインのためポジション確認でプルークや斜滑降、横滑りの練習。その後はプルークターンやパラレルでの大回り、小回りの基礎的な事をやりました。高橋さんは新調された赤いウエァーで登場。学生時代に新潟や信州で滑っていた経験が身についていてか丁寧で上品な滑りでした。午後に仕事が入っているとのことで全員１３時頃まで滑りました。また、畠さんは手の怪我で親指の付け根に痛みがありストックを握るのに不安があり、センターハウスから活動の様子を見学。昼食休憩では、大友さんから昨年(平成２９）３月に出かけたカナディアンスキーのお話を伺うことができました。

昼食後の活動では、新雪や不整地、急斜面などをゆっくり滑りました。

一番上の第３リフトからの滑走は、時々ガスが濃くなり視界不良のため２度だけ。安全のため下のゲレンデで活動。シーズン初めのスキーでそれぞれの滑りを確認しながら安全に活動することができました。

【日　程】9:30 集合時刻（9:15 全員集合）
　　9:40 午前活動スタート
　13:00～14:00 休憩・昼食
　14:00～15:30 午後活動／終了・解散

【参加者】６名
　久保　豊(幹事･記録)、畠　登、大友厚夫
　阿部陽子、高橋万見子、滝浦宏美

JAC 東北･北海道地区集会　決算書

収　　入		
項　目	金額 円	内　　訳
参加費	944,000	59 人×16,000
雑収入	5,711	ご祝儀、二次会残等
合　計	949,711	
支　　出		
項　目	金額 円	内　　訳
水光園支払	690,540	宿泊料,夕食,語り部等
講師謝礼	30,000	
役員行動費	48,000	下見山行等４回･16 人
記念品	25,500	参加者全員、お菓子代
取消者返金	43,890	２人＋1 人(端数)
交通費	21,550	講師、来賓、現地移動
記念写真	7,879	集合写真プリント代
印刷費	16,000	支部通信 46 号一部負担
会場費	12,640	3 回分
事務費	17,312	印刷、電話、郵送料
PC 借用料	15,744	カセットインク３組
残　金	20,656	支部会計へ繰入
合　計	949,711	

収　　支	
項　目	金　　額　円
収入－支出	949,711－949,711＝0

2017.5.27～28. 遠野水光園～六角牛山で実施
報告者：集会会計担当　菅原敏夫

2 月 例 会 山 行

平成 30 年 2 月 10 日(土)

黒 森 山（309.9m）宮古市

盛 合 敏 男

宮古は１週間ほど雪も降らず、前に降った雪もおちついていた。早朝は陽も差していたので、山より国道 106 号線の閉伊街道の方が心配であった。

集合場所の宮古市魚菜市場駐車場に行ってみると、中屋氏が待っていた。盛岡からバスで来たとのことであった。冬の区界峠を自家用車で来るよりは懸命であると思った。その後参加予定者が到着し、心配していた区界峠も雪は無く道路状況は良いとのことであった。

宮古市魚菜市場駐車場からは今から登る「黒森山」が見えていた。9：45 遅れていた方も到着し、9：48 集合場所の宮古市魚菜市場を黒森山に向け出発する。

本日の参加者は全員で５名ということで、ちょうど私の車１台で動きやすい人数であった。

黒森神社の朱色の大鳥居をくぐり 9：58 黒森神社駐車場に到着。2 日前にはたどり着けなかった駐車場まで何とか来ることができた。

10：00 駐車場出発。すぐ横の石段を登り詰めたところが黒森神社で、鳥居の両脇には大きな樅の木がそびえ立っていた。側の立て札には「樅（マツ科）自生の北限地　推定樹齢 1300 年位」と記載してあった。本殿にお参りをし、本殿右側にある登山口から登ることになる。

10：07 登山開始。登山口には山から引いた水があり、口を潤して登山開始とする。登山口のすぐ上の蚊龍の滝への分岐を過ぎ、10：11 御祖父杉(枯死)・御祖母杉を右に折れ少し行き左に登る。10：16 林道出会いで左に林道を進む。10：18Ｔ字路の所で右の山道へと登って行く。ここからが刺のある灌木帯である。最低限度は切ってあるが、気を付けないと服に引っかかり、服を裂いたり肌に刺さったりするので要注意となる。山道を上に進むと頂点の所から下り道となり少し行く。10：24 山側にアルミの梯子がかかっている場所がありそこから稜線を目指すことになる。梯子を上がったところに１本杉跡の石柱が立っている。そのまま上部を目指し上り詰め 10：29 稜線にでる。少し行くと標高点のような石柱が立っていた。そのまま稜線を進む。

10：35 黒森山山頂に到着。

掘り起こした三角点

黒森山山頂標識にて

三角点は雪に埋まっていたが、守り石の中心を掘り起こし無事「三等三角点の標石」を掘出す。三角点にて記念写真（証拠写真）を撮る。
山頂から北寄りの所から海が見え、海岸の丘の所に白い建物が見える。位置的には「旧潮吹グランドホテル」と思える。山頂での滞在時間は思ったより長くなった。

三角点前での記念写真

11：07 黒森山山頂を出発。11：09 基準点（標高点）通過。稜線から東側に降りる。11：13 一本杉跡通過。11：14 アルミ梯子を下り山道を登る。山道の頂点から下りになる。11：18Ｔ字路から林道へ。11：21 林道から山道を下山。11：23 御祖父杉・御祖母杉を曲がり、11：26 黒森山登山口（黒森神社）着。

登山口から往復１時間 20 分のささやかな登山であった。

黒森神社本殿下の石碑等を見てから駐車場へと石段を下りる。11：34 駐車場到着。車に荷物を載せ 11:40 黒森神社駐車場を出発し近くにある山口公民館へ。

11：50 山口公民館着。11：55 山口公民館１階奥にある談話・図書コーナーのテーブルにて昼食とする。建物内は暖かくほっとする。昼食後に館内に設置の「黒森神楽展示室」と「寄生木展示室（徳富健次郎［蘆花］著　寄生木の原作者　小笠原善平 の資料）」を見学する。時間に余裕があるので冬の浄土ヶ浜を案内することにする。

13：08 山口公民館を出発。13：37 浄土ヶ浜駐車場着（浄土ヶ浜は冬期間［12/1～3/31］のみ浜への自家用車の乗り入れが可能である。）冬の浄土ヶ浜は落ち着いた雰囲気できれいである。（雪景色はもっときれいである。）

13：37 浄土ヶ浜駐車場を出発する。途中、東日本大震災後に設置された宮古港の防潮堤の壁や閉伊川河口で工事中の水門、２階まで被災した宮古市役所を横に見ながら宮古市魚菜市場に向かう。

14：05 宮古市魚菜市場到着。大体予定の時間での解散となった。

天気もまずまずで、短時間ではあったが参加者にとって楽しい山行であったと思う。

黒森神社本殿

浄土ヶ浜にて

【参加者】
滝浦弘美、　菅原純悦、中屋重直
高橋慎一、盛合敏男（幹事）
以上５名（受付順）

日本山岳会に準会員として

A－0025　　盛 合 敏 男

準会員として日本山岳会に入会しました宮古の盛合敏男と申します。

岩手支部の皆様にはいろいろご指導していただきたいと思います。

入会のきっかけは、岩手国体山岳競技で阿部陽子支部長さんと遠藤正子さんと、一つの机で国体競技の仕事をしたことでした。当時、加入していた山岳会が岩手県山岳協会から脱退？という話があり、岩手県山岳協会の講習会等に参加し、楽しんでいた私は、どこか加盟山岳会に入会をと考えていた時でした。その時に日本山岳会入会を勧められました。11 月に国体慰労会で遠藤正子さんに会った時、10 月から始まった準会員制度での入会を勧められ入会しました。「A0025」が私の加入番号です。とても気に入っております。しかし、準会員制度は３年間ということですが、このままの会員で行けないかなと思っております。

私と山との出会いは高校の時で、山部もなく仲間で登った近くの山「十二神山」が最初の山でした。その後「鯨山」や「早池峰山」そして「堺の神岳」に仲間と登りました。

当時は列車で最寄りの駅まで行き、その駅から山頂までの歩きでした。思い出すのは、仲間と作った「山岳愛好会」での早池峰山避難小屋に泊った時の楽しい体験です。

後期高齢者となった現在は、行ける時に行けそうな山に行きたいと思います。遠くの山や高い山に行けなくなったら、近くの山や低い山を少しずつ楽しみ、歩けるうちは末長く山を楽しんでいきたいと思っています。一緒に登る時にはよろしくお願いします。

平標山にて（2017. 9）

岩手の、東北の山を堪能したい

A－0026　　高橋万見子

「30 歳の記念に 3000 mの富士山に登ってみようよ」。そんな友人の言葉に誘われて、生まれて初めて登山靴を買いに行ったのがお山とのつきあいの始まりでした。

以来、20 ン（？）年。途中、仕事が忙しくて離れざるをえない時期も何度かありましたが、「登らないと見られない景色」に惹き付けられ、今日に至ります。

仕事柄、休みが不確実なので、ごく限られた友人と、もしくは単独行で登ることが多いのですが幸い、達人たちと「山トモ」になる機会にも恵まれ、基本的なことを教わりながら少しずつ山のレベルをあげてきました。

50 近くなってから３泊以上の縦走や雪山にもチャレンジするようになり、2017 年９月にはガイド付きながら「あんなところは一生行けない」と思っていた奥穂～ジャンダルム～西穂も歩き通すことができました。もう思い残すことはない！という気分です。

2016 年９月に転勤で盛岡へ。職場の大先輩から阿部陽子さんをご紹介いただき、ご縁あってＪＡＣに準会員として加入させていただきました。あらためて、登山技術を身につけたいと思っています。北東北の雄大な山並みの美しさ、懐の深さには本当に心動かされます。そして味覚！今年はなんとしても山菜やキノコを採りに行きたいです。

いまの仕事は土日がつぶれがちなうえに７月１０日ごろから～８月半ばまで高校野球でほとんどどこへも登れないのが大きなストレスではありますが、できる限りＪＡＣの定例山行に加わり、岩手と東北の山々を堪能したいと思っております。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

チ チ タ ケ

北陸新幹線の建設工事が行われている野尻湖はナウマンゾウ化石の発見で知られている。８月はじめ、湖からの眺めが際だつ妙高連山(2450m前後)を縦走した。

妙高山の急峻な中腹を下っているとき広葉樹林で、赤褐色ビロード状の中型きのこ**チチタケ**が見つかった。かたく脆い、傷つくと粘りのある白い乳液がポタポタ出てくる。岩手の山にももちろん発生する。

ハツタケと同じように、だしが出るので長野、栃木で特に人気があり、生で食べたりうどんのだし汁に使うという。岩手でも店頭で見かけるが、私はまだ食べていない。

乳液には 3～5%のゴム質が含まれていて、第二次大戦中ドイツでゴムを生産する研究が続けられたが、分子の鎖が短く質が悪いため実用化しなかった。ゴムの木もチチタケも何のためにゴムをつくるのか。未だ定説がなく研究もチチとして進まない。解明はずーっと先に延びそうである。

2011年　きのこノートより

菅　原　敏　夫

入　会　挨　拶

A－0080　菅 原 純 悦(75 歳)

２０１７年７月から日本山岳会の準会員として入会させていただきました。久慈市生まれで現在は盛岡市西見前に住んでいます。高齢者の菅原です、どうぞよろしくお願い致します。

山関連での経歴は、昭和５８年旧都南村時代に都南山岳会へ入会して、鳥海山・尾瀬・大平山・岩手県内の山等に登りまして登山の楽しさにハマりました。岩手山山開きに向けて岩手県内の山岳会の皆様と一緒に、八合目避難小屋の掃除（ロープを張っての毛布干し・山小屋の脇に穴を掘ってトイレの汲み取りをして埋める作業等）に従事したこと、山岳会交代の避難小屋管理当番がくると、２０㍑入り鉄タンクで発電機用のガソリン荷揚げを仲間と交代で背負った時の辛かったことが思いだされます。山岳会の仲間が「これらの作業は諸先輩がずうっとやってきたこと、山の安全のために頑張ろう！」と言われて参加してきました。平成４年都南村は盛岡市に合併し都南山岳会は解散し、その後は職場同僚やサークル仲間等と富士山・安達太良山・大雪山・秋田駒・会津駒・岩木山等に登りましたが、最近は年を取るにつれて低山の里山登山に代わってきました。

中高年からの登山スタートですから、冬山は色々の事例を知り無理せずの考えで冬期間は登山をしませんでしたから未経験です。

身近に毎年実施していることは、自宅近くの北上川河川敷の散策・ジョッキングの途中、山の幸が色々と目に入り、のびる・キノコ・胡桃等の採取、庭の一部を開墾してトマト・胡瓜・ゴーヤ等の家庭菜園を覚えて１０年を経ましたが、我が家では食べきれない程の収穫があり、老化防止のためにと思い始めた日々の作業が特技・趣味に向かっていくように楽しんでおります。

初心にもどり会員の皆様から温かいご指導をいただいて、事故のない登山を歩みたいと思っています。よろしくお願いします。

編　集　後　記

２月、冬期オリンピックが韓国の平昌で開催され、日本選手の熱闘に見入った。聖火台の奥遠にはスキー場も輝いて見えていた。ここはいわゆる３８度線の南であり、福島市とか新潟市の緯度である。が、テレビに映る路面は黒く、滑走路には人口雪も使用とか。

かたや、我が国の冬は、何十年振りかの大雪で、福井では国道７号線が何日間か交通がマヒし、自衛隊も出動した。

気象衛星によると、大陸からの冷たい空気が日本海でたっぷりと水蒸気を取り込み、筋状の雲となって本州へ。脊梁山脈に突き当って、北陸や北日本に大雪をもたらす。日本海の水が雪になったもので、日本海に水がある限り大雪は避けられない。

支部通信の表紙は、今年登った山の写真を並べた。夏山中心の活動だから広葉の山である。山頂以外の写真、動植物などの絵も紹介していきたい。これぞといったものをどしどし寄稿願いたい。

菊池修身元支部長のご挨拶、新入会員のご挨拶を掲載でき、折しも花の季節を迎えて支部の躍動が感じられます。　　（菅原敏夫）

JAC 岩手支部通信第 47 号
発　行　　２０１８年3月２０日
発行者　　(公)日本山岳会岩手支部長　阿部陽子
編　集　　菅原敏夫　suga1040@ginga-net.ne.jp